様式第８号（第６条関係）

決裁	議　長	局　長	次　長	係　長	係　　員
		佐藤			

派遣承認要求書

令和５年10月16日

栗原市議会議長　殿

会派名　市民くりはら
代表者　佐藤　千昭　㊞

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日　　時	令和５年11月20日（月）05時45分から 令和５年11月22日（木）20時30分まで
派遣先	① **道の駅たけはらと歴史的町並みの現地視察**『広島県竹原市本町１丁目１－１』 ② **竹原市議会**『広島県竹原市中央五丁目１番35号』 ③ **mine 秋吉台ジオパーク**『山口県美祢市秋芳町秋吉 11237-862』 ④ **タカミヤ環境ミュージアム**『福岡県北九州市八幡東区東田 2-2-6』
派遣目的	①・②現存する歴史的な町並みの魅力をどのように守り、磨き、活かし、継承し、交流の場とし発信しているか、観光と結び付けて生かしているか、道の駅を中心とした歴史的な街並みや街づくりと観光との融合を現地視察と机上調査。 ③山口県内で初めて日本ジオパークに認定された場所。美祢市での地域の自然や歴史、文化の成り立ちを学ぶ場所として、秋芳洞をどのように観光に結び付けているのか。我が市の栗駒山麓ジオパークとの違いや共通点、ジオパークの運営方法などを学び、ユネスコ世界ジオパークの認定に向けた活動の取り組みを視察。 ④北九州市博覧祭のパビリオンとして誕生した環境学習の場。環境活動の拠点としての「環境ミュージアム」。公害克服や、世界の環境問題、身の回りのエコ活動や市民・企業の環境への取り組みなど、“SDGs 未来都市”である北九州市の取り組み方を視察。
経　　費	旅費 254,980円（1人当たり 127,490円）現地支払いバス・地下鉄代含 その他経費：視察先へのお土産代 2,640円：ガイド、入洞料 5,000円
派遣議員氏名	佐藤 千昭・菊地 広志
議長依頼文の要否	要　　否
備　　考	その他参加者　創成会２名、尾形勝通

収受
-5.10.19
栗原市議会

式第９号（第６条関係）

決裁	議　長	局　長	次　長	係　長	係　　員

自家用車による出張計画表

令和５年１０月１６日

栗原市議会議長　殿

会派　　市民くりはら
代表者　佐藤　千昭

下記のとおり自家用車による出張をしたいので、承認されるよう要求します。

記

日　時	令和５年11月20日～令和５年11月22日
出 張 先	広島県竹原市・山口県美祢市・福岡県北九州市
目　的	行政視察（栗原市役所から仙台空港までの往復）
出 張 議 員	佐藤　千昭・菊地　広志
自家用車所有者	佐藤　千昭

行程明細

出発地～行先	利用道路	距離(km)	車　賃	有料道路代	駐車場代
栗原市役所～仙台空港	東北道他	85	1,360	1,024	
仙台空港～栗原市役所	東北道他	85	1,360	1,024	
	小　計	170	2,720円	2,048円	1,200円
			出張雑費		
			総　計	5,968円	

経費：参加人数５で案分し、会派参加者２人分

収受
5.10.1
栗原市議会

栗原市議会会派視察行程表

日程：令和5年11月20日（月）～11月22日（水）

月日	行　　程	発	着	摘　　要
11/20（月）	市役所　～　仙台空港	6:00	7:20	自家用車乗り合わせ
	仙台空港　～　広島空港	8:05	9:40	IBX39
	広島空港　～ 道の駅たけはら	10:00	10:30	連絡バスタクシー
	市内街並み現地視察	10:30	12:00	行政視察
	竹原市役所視察	13:00	14:00	行政視察
	竹原駅　～　広島駅南口	14:14	15:21	かぐや姫号[芸陽バス]
	ホテル（広島市内泊）			広島ワシントンホテル　082-553-2200
11/21（火）	広島駅　～　新山口	9:08	9:57	ＪＲ山陽新幹線
	新山口　～　秋芳洞	10:20	10:57	防長バス
	秋芳洞　～ Mine秋吉台ジオパーク	11:10	11:35	タクシーにて移動
	Mine秋吉台ジオパーク視察	13:00	15:00	行政視察
	Mine秋吉台ジオパーク ～　秋芳洞	15:15	15:30	タクシーにて移動
	秋芳洞　～　新山口	15:40	16:19	防長バス
	新山口　～　下関駅	16:45	18:02	ＪＲ山陽新幹線
	ホテル（下関市内泊）			ドーミーインPREMIUM下関　083-223-5489
11/22（水）	下関駅　～ スペースワールド駅	9:06	9:43	ＪＲ山陽本線・徒歩
	タカミヤ環境ミュージアム視察	10:30	12:00	現地視察
	スペースワールド駅 ～　博多駅	13:58	14:47	ＪＲ鹿児島本線
	福岡空港　～　仙台空港	16:50	18:30	IBX17
	仙台空港　～　栗原市役所	18:40	20:00	自家用車乗り合わせ
	解散	20:00		

申請日　　5 年 10 月 16 日

会派視察 旅費以外 経費見積書

部署：　会派　市民くりはら

氏名：　代表　佐藤　千昭

合計：　¥7,640

日付	内容	支払先	金額	備考
11月22日	mineジオパーク視察ガイド料　2時間　6,000円	mineジオパーク	¥2,400	1名分　@1,200円
11月22日	秋芳洞入洞料　@1,300	秋芳洞	¥2,600	1名分　@1,300円
11月20日	視察先への栗原土産（竹原市・美祢市）6,600円	観光物産協会	¥2,640	1名分　@1,320円

様式第１０号（第７条関係）

視察研修結果報告書

令和５年１２月７日

栗原市議会議長　高橋　渉　殿

会派　市民くりはら
氏名　佐藤　千昭

視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

1　期　間　　令和５年11月20日～22日

2　視察研修先

① 広島県竹原市「道の駅たけはら・歴史的町並み」(観光まちづくり担当部)

② 広島県竹原市 竹原市役所（総務企画部産業振興課 商工観光振興係）

③ 山口県美祢市 Mine 秋吉台ジオパーク

（教育委員会世界ジオパーク推進課）

④ 福岡県北九州市 タカミヤ環境ミュージアム（里山を考える会）

3　目　的

① ② 現存する歴史的な町並みの魅力をどのように守り、磨き、活かし、継承し、交流の場とし発信しているか、観光と結び付けて生かしているか、道の駅を中心とした、歴史的な街並みや街づくりと観光との融合を現地視察。竹原市役所では竹原市の観光施策についての机上調査。

収受
－5.12.－7
栗原市議会

③ 山口県内で初めて日本ジオパークに認定された場所。美祢市での地域の自然や歴史、文化の成り立ちを学ぶ場所として、秋芳洞をどのように観光に結び付けているのか。我が市の栗駒山麓ジオパークとの違いや共通点、ジオパークの運営方法などを学び、ユネスコ世界ジオパークの認定に向けた活動の取り組みを視察。

④　北九州市博覧祭のパビリオンとして誕生した環境学習の場。環境活動の拠点としての「環境ミュージアム」。公害の克服や、世界の環境問題、身の回りのエコ活動や市民・企業の環境への取り組みなど、“SDGs 未来都市”である北九州市の取り組み方を視察。

4　調査研究内容

別紙の通り。

5　参加議員

佐藤　千昭　・　菊地　広志

調査研究内容

1-① 広島県竹原市「道の駅たけはら・歴史的町並み」(観光まちづくり担当部)

（広島県竹原市本町１丁目１－１）（11 月 20 日）

今回視察に訪れた広島県竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置し、瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然に恵まれた「竹の町」である。「安芸（＝広島県西部）の小京都」とも呼ばれる「町並み保存地区」を有している。石畳の続く本通りから細い路地を抜けると、様々に情緒あふれる町並みを観る事が出来る。専門の町並観光ガイドさん(有料)が居り 2 時間ほどかけて美しい町並みを案内して頂いた。やはり名所・観光地ではガイドは必須だと感じたが、栗原市でも有料ガイドを色々な場所で活かせたらとも感じた。

この歴史的町並みを保存継承していくにはかなりの費用もかかるとの事で、竹原市の歴史的町並を保存していく上での苦労話も聞く事が出来た。重要伝統的建造物群に選定された「町並み保存地区」は 2000 年に「都市景観 100 選」にも選出されたとの事だ。酒造業で栄えた江戸時代の面影をそのまま残し、往時を偲ばせる石畳や漆喰、「竹原格子」と呼ばれる塗り篭め格子を用いた町屋が特徴だ。栗原市の長屋門や武家門にも相通じるところがあるようにも思う。

保存地区内には大林宣彦監督の「時をかける少女」のロケ地となった「普明閣」「胡堂」や、「松坂邸」「森川邸」などの旧宅があり、当日もテレビ局のロケが行われており、沢山の観光客で賑わっていた。栗原市でも古民家や歴史的建造物があるが、町並みと呼ばれる場所は栗駒地区の六日町ぐらいしか無く、この竹原市の取り組みを直ぐに生かせるとは思わないが、歴史的建造物の保存や活用方法は参考にすべきと思いながら視察して来た。

また竹原市の観光ガイドブックには、道の駅や町並み保存地区だけではなく、瀬戸内海に面した「忠海」地図から消された島「大久野島」うさぎの島「大久野島」など、次回は観光で訪れてみたい所が沢山紹介されていた。様々なグルメや市内で体験できる事や施設が詳しく載っていた。お土産品紹介やアクセスガイドも充実しており、これは栗原市でも是非参考にして欲しいと思う。

1- ② 広島県竹原市 竹原市役所（総務企画部産業振興課 商工観光振興係）
（広島県竹原市中央 5 丁目 1 番 35 号）（11 月 20 日）

町並みの現地視察後に竹原市役所に移動し、竹原市議会議長の大川氏、竹原市観光まちづくり担当部、國川部長、商工観光振興係の中原氏、竹原市議会事務局の道面氏などに出席して頂いて、竹原市の「竹原観光まちづくり機構」についての机上調査を行った。

「竹原まちづくり機構」の目的や事業計画、事業内容などをご説明いただいた。目的として持続可能な観光まちづくりを実現するために「竹原ブランド」の形成に向けた諸事業に戦略的に取り組み、新たな価値を創造する専門的機能を持つことで顧客満足度の高い事業の充実を図り、経済の発展・自然環境との共生、竹原市民の生活と文化の向上、地域の活性化に寄与する事を目的に創設された機構との事だ。やはり「ブランド化」は大事だ。我が栗原市で「くりはらブランド」と言えば何があるだろう？ブランド力は発信力にも繋がると思うので、我が市でも「くりはらブランド」は是非考えたい。

観光地域づくり法人（ＤＭＯ）の形成・設立は令和 4 年 12 月に既に終えており、竹原市長が先頭に立ち地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的なアプローチを取り入れ観光地域づくりを行う舵取り役となる非営利型一般社団法人を設立し、役割分担や資金の調達、事業の方向性と効果を検証しながら活動している状況との事だ。事業内容もプロモーションやブランディング、コンテンツ造成や情報一元化など多岐にわたり、事業実施体制と役割を明確にして、まだ始まったばかりの事業とは言え、将来的に地域ＤＭＯの認定を目指しているとの事で、竹原市の本気度が伺えるスケジュールだった。

我が栗原市でも「観光物産協会」を中心にして観光と物産を考えているようだが、やはり現状では、観光物産協会への負担や依存が大き過ぎ、事業もコンテンツも誘客も上手くは行っていないと感じる。やはりＤＭＯを設立し、市長自ら先頭に立って、商工観光部とも連携させて様々な関係者を巻き込んで、栗原市の観光と物産を進めて行くようにしないと、他人任せでは絶好のコロナ過でのインバウンド需要も享受できず、埋もれていく栗原市になってしまうのかなと感じた。

2　山口県美祢市 Mine 秋吉台ジオパーク （美祢市教育委員会世界ジオパーク推進課）

（山口県美祢市秋芳町秋吉 11237-862）（11 月 21 日）

山口県のほぼ中央に位置する美祢市は、Mine 秋吉台ジオパークとして日本ジオパークに認定されている。最初にお邪魔した Mine 秋吉台ジオパークセンター「Karstar（カルスター)」は、ジオパークの情報発信を行う観光案内所で、コーヒースタンドを併設する無料休憩所があり、大きな窓からは秋吉台の大自然を一望する事ができた。愛称である Karstar（カルスター）は、Karst(カルスト）＋Star(星)の造語で、秋吉台の輝く一番星のように、この地のランドマークとして多くの方々にここを目指して来ていただけるよう願いをこめて名付けたとの事だ。美祢市教育委員会事務局、世界ジオパーク推進課、ジオパーク推進班の谷直子班長にお出迎えを頂き、色々とお話も伺った。

Mine 秋吉台地域の中央部には、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」が広がっている。秋吉台は、昔のサンゴ礁が積み重なった石灰岩でできているとの事。石灰岩は、秋芳洞をはじめとする鍾乳洞の観光利用や鉱物資源としての採石など、地域内外の人々の生活と密接に関わっているとの事だった。

秋吉台と秋芳洞を巡るジオツアーに申し込んで、ガイドの方に案内を頂きながら、秋吉台と秋芳洞を歩きながら説明を頂いた。ジオガイドは有料で、まだ有料のガイドを頼んでツアーに参加する人は少ないと言っていたが、有料でも色々と詳しく説明が聞けて、地理にも詳しく何でも返答が返って来る事を考えれば、有料ガイドは有りだと思う。栗駒山麓ジオパークとは規模も形も全く異なるジオパークではあるが、ジオパークビジターセンターの取り組み方、ジオガイドの方の取り組み方は同じように感じた。栗駒山麓ジオパークでも有料ガイドを設定し、訪れる方々に有料ではあるが、ジオパークを良く理解して貰えるようにすれば良いとも感じた。

また 10 月にはＮＨＫの番組「ブラタモリ」の撮影があり、タモリさんが現地を訪れて色々なお話を聞いていったとの事だった。ブラタモリが来てくれると、来場者数も増えるとの事なので、栗原市にも来てくれないかとも思いながら秋吉台を歩いた。今は一昨年の豪雨の影響で鉄道が不通になっており、ジオパークまでの連絡は代替バスか新山口駅からの直通バスになる。まだ至る所に被害の形跡が見られ、豪雨災害の怖さも感じた。

3　福岡県北九州市 タカミヤ環境ミュージアム（里山を考える会）

（福岡県北九州市八幡東区東田 2-2-6）（11 月 22 日）

最終日、福岡空港に向かう途中、JR 鹿児島本線「スペースワールド駅」を降りると、今は閉園した「スペースワールド」と言う遊園地跡の再開発地に出る。そこをミュージアムに向かう道沿いには「東田第一高炉史跡広場」があり、大きな煙突のオブジェを観る事が出来る。北九州が繁栄を極めていた頃の象徴とも呼べる煙突だが、公害問題を引き起こした煙突でもあり、複雑な思いで見てきた。

かつては「七色の煙」が空を覆い、洞海湾は魚が住めないほど汚染され 「死の海」と呼ばれていた北九州市。現在のような青い空と青い海を取り戻すまでの歴史を学ぶ為に今回訪問したのが「北九州市環境ミュージアム」だ。

北九州市からの指定管理を受けている「里山を考える会」山下説明員に出迎えて頂き、ミュージアム館内の案内と環境ミュージアムの目的や管理方法を説明頂いた。私達が訪れた当日も大型バスで修学旅行生や、県内外から学校の研修授業としてミュージアムを訪れており、北九州の発展の歴史を学ぶ上では欠かせない施設になっているとも感じた。当時は「七色の煙」つまり煤煙を見上げて、その汚さが汚い程に喜んでいたと説明を受けた時は、当時の繁栄優先の気持ちが人々の感覚を麻痺させていたのだろうとも思った。

館外には地球誕生から現在までの物語を聞きながら体験できる「地球の道」も有るとの事だった。倉本聰さんが脚本を手がけた壮大な物語からは、地球という惑星の不思議、奇跡が実感できるとの事だったが、当日は閉鎖中で観る事は出来ずに残念だった。

北九州では近代化の幕開けと同時に、1960 年代には海は真っ赤に染まり、空は煤煙で覆われて青空が見えない深刻な産業公害問題をもたらした。公害問題を克服した北九州では、その経験を活かした環境国際協力に取り組み開発途上国の環境改善に取り組んでいるとの事で、過去の過ちを二度と繰り返さないとの強い決意を感じた。

公害克服の歩みだけでなく、家や自動車などを通じてエコライフを体感しながら楽しく知る事ができる。エコ住宅に入ってみたが、最新式の設備にエコライフには欠かせない発電施設、空気の循環方式など様々な仕組みが付いていたが、建築費を聞いて直ぐに真似は出来ないとも感じた。今や環境先進都市として世界からも注目される北九州市の環境技術力にも驚いた。宮城県はこの部門は進んでおらず、今後の必要性を感じた。